

宮崎静夫展

友を悼む

平和祈念展示資料館 特別展示



虜囚(1984年)



収穫と曠野の幻影(2011年)

14歳

満蒙開拓
青少年義勇軍

15歳

満州へ

17歳

関東軍入隊
～終戦

18歳

シベリア抑留

22歳

帰国

2021年 2月10日(水)～16日(火) 9時～17時

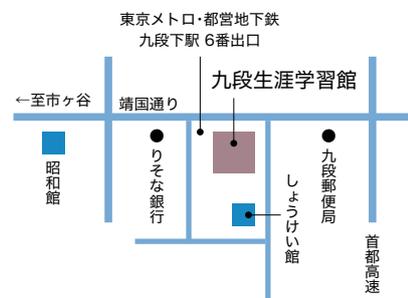
九段生涯学習館2階 九段ギャラリー 東京都千代田区九段南 1-5-10

入場
無料

東京メトロ東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前

※九段生涯学習館には駐車場がありません。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

主催 平和祈念展示資料館(総務省委託) 後援 千代田区 協力 昭和館、しょうけい館



宮崎静夫展

友を悼む

入場
無料

平和祈念展示資料館 特別展示

終戦後、シベリアをはじめとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境のなか、過酷な労働に従事させられた“戦後強制抑留者”は57万5千人にのぼります。

画家・宮崎静夫(1927-2015)は14歳で満蒙開拓青少年義勇軍に入り、17歳で関東軍に入隊、終戦後はシベリアのコムモリスクなど7か所の収容所を転々として、4年間の抑留生活を体験しました。帰国を果たした宮崎は1970年代から、満州(現・中国東北部)で亡くなった満蒙開拓青少年義勇軍の仲間や、シベリア抑留で命を落とした戦友たちへの鎮魂をテーマにした作品を描きはじめました。本展では、平和祈念展示資料館が所蔵する宮崎作品の中から15点の絵画を紹介しします。これらの作品には、若くして亡くなった友を悼む画家の想いが込められています。



十五歳、刻の流れの中で(2011年)



囚衣(1998年)

宮崎 静夫

1927(昭和2)年 10月 熊本県小国町に生まれる
1942(昭和17)年 3月 満蒙開拓青少年義勇軍に入隊
1945(昭和20)年 5月 関東軍に入隊
10月 武装解除後、シベリアに4年間抑留される
1949(昭和24)年 8月 舞鶴港に引揚げ
1957(昭和32)年 洋画家・海老原喜之助に師事
2008(平成20)年 熊本県芸術功労者に選ばれる
2010(平成22)年 第69回西日本文化賞受賞
2015(平成27)年 4月 逝去、享年87

ご来場の際には、皆さまが安全にご覧いただけるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
また、混雑した場合には入場制限を行うこと、状況により開催中止あるいは期間短縮とさせていただきます。

昭和館、
しょうけい館との
連携企画

昭和館

千代田区九段南1-6-1 Tel.03-3222-2577 ※2月15日(月) 休館 ※2月16日(火) 図書室休室
ニュースシアターでのシベリア抑留に関するニュース映画などの上映のほか、図書室では関連書籍の紹介コーナーを設置します。

しょうけい館

千代田区九段南1-5-13ツカキスクエア九段下 Tel.03-3234-7821 ※2月15日(月) 休館
シベリア抑留を体験した戦傷病者の方の証言映像を上映するほか、手記などの関連図書を図書閲覧室で紹介しします。

同時開催

平和祈念展示資料館 **入館無料**

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階

平和祈念展示資料館(新宿区)にて、「宮崎静夫展 - 鎮魂を祈る」を開催しています。
《敗残の夏》をはじめ10点の宮崎静夫の絵画作品をご覧いただけます。



敗残の夏(2005年)

平和祈念展示資料館(総務省委託)

Tel.03-5323-8709    @heiwakinen
<https://www.heiwakinen.go.jp>